

教育目標	
未来を心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況，次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年9月17日～9月27日	学校運営協議会理事
最終評価		

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
○今年度の研究や特に重視した保育の改善・充実に向けた具体的取組 <ul style="list-style-type: none">・研究保育・エピソード研修を核とした園内研修の推進・研究主題サブテーマ「言葉による伝え合い」を育む取組の具体的方策・「安心・安定」「自己発揮」「協同性」をキーワードとした保育の推進
○計画的な保育，個への支援の具体的取組 <ul style="list-style-type: none">・幼児の主体的な活動を確保した計画的な環境構成や援助の在り方・行事の見直し，保育と行事との連動・非常勤講師，総合育成支援員，学生ボランティアによる支援
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none">・幼児の遊ぶ姿の変容・計画的な保育の週案への明記と振り返り

- ・行事や取組の振り返りによる成果と課題の明確化
- ・「個別の指導計画」の作成による確実な引継、個に応じた保育
- ・アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」

中間評価

各種指標結果

- ・3歳児は幼稚園の生活に徐々に慣れ、安心して自分の好きな遊びを楽しむ姿が見られる。
- ・子ども同士や教師と楽しく遊ぶ子どもの姿が見られる。
- ・行事や取組の振り返りを記録し、次年度への改善に活かすようにしている。
- ・「個別の指導計画」や研修により、子どもの実態を教職員で共有している。
- ・アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」 あてはまる84%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・1週間の保育を振り返り、次週の週案に活かすようにしている。
- ・行事や取組の実施後に、個別に振り返ることはあるが、職員全体で振り返る時間を持つことがなかなかできていない。

分析を踏まえた取組の改善

- ・研究保育やエピソード研修を通して、保育の改善・充実や子ども理解を図る。
- ・行事や取組の実施後に、振り返りの時間の設定し、次への活動に活かす。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・研究保育・エピソード研修を核とした園内研修の推進
- ・行事や取組の振り返りによる成果と課題の明確化
- ・アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（遊びに向かう力）を身に付けていること」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・竹田幼稚園の教育活動には、大変満足している。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

（２）幼小連携・接続に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・発達や学びの連続性に重点を置き，子どもの主体的な遊びを通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を目指し，「学びに向かう力」の育成を意識した保育の推進 ・保幼小連携の定期的な連絡会，連携した取組の充実 ・就学前施設と小学校教育との円滑な接続を意識した，子どもの交流や教職員の授業・保育研究や合同研修 ・接続期カリキュラムの作成・検討
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育・合同研修の実施 ・接続期カリキュラムの作成 ・アンケート項目「園は，小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育を実施し，「幼児期までに育ってほしい１０の姿」を視点として，小学校・保育所の教員からの感想や評価を得られた。 ・理解推進事業の幼小連携の協議に，小学校の幼小連携主任が参加した。 ・アンケート項目「園は，小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」あてはまる７８％
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な保幼小連絡会を実施し，計画的な取組の計画や子どもの情報交換を行うことができた。 ・幼稚園と小学校との人権研修は実施できたが，保育の合同研修は実施できていない。 ・幼小連携をテーマとした合同研修は実施できていない。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の５歳児の保育計画をもとに，接続期カリキュラムの見直しを作成していく。 ・保育の合同研修を計画・実施していく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育・研修の実施 ・接続期カリキュラムの作成 ・アンケート項目「園は，小学校への円滑な接続に向けての取組を進めていること」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは，幼児期から習慣づけることが大事。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育と教育課程内の活動の連動と見直し ・ 預かり保育ならではの特色ある保育の企画・実施 ・ 預かり保育の役割や運営についての保護者への発信 ・ 預かり保育利用の保護者への見通しと安心・安全な運営 ・ イベントボランティアとしての保護者の参画
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加人数 ・ 預かり保育の活動や指導計画の見直し状況 ・ アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加人数は、4月～6月は昨年より減少しているが、3歳児が参加した7月からはほぼ昨年並みの参加が見られる。 ・ 預かり保育研修会に参加し学んだことを参考にして、知育玩具や物品の環境整備や活動の見直しを図っている。 ・ アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」 あてはまる92%
自己評価	<div>分析(成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の安全な運営を目指しているが、参加について取り消し・追加が多くなっている。 ・ 預かり保育の充実に向けた環境整備を図っている。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加状況の確実な把握に向けて、保護者の協力を図る。 ・ 10月からの幼児教育無償化に伴い、預かり保育料の確実な把握・徴収を行う。 ・ 預かり保育の充実に向けた環境整備・保育の充実を図る。 <div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加者の確実な把握 ・ 預かり保育の適切な運営 ・ アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <div>・特になし</div>
---------	--

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

（４）子育ての支援に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・めだか・うさぎ組の遊びや取組を通して、子ども同士や親同士の交流を図る ・未就園児の保護者の教育相談を推進する ・幼稚園説明会において、京都市立幼稚園の教育活動の理解を図り、竹田幼稚園への入園に繋げる ・「ぐんぐんひろば」（地域子育て支援ステーション補助対象事業）に参加し、豊かな体験などを通して、子どもの健全育成や子育て支援を図る
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数 ・幼稚園説明会の参加人数 ・未就園児保護者に対するアンケートの実施

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組について、未就園の取組は例年通りの回数や参加人数が得られている。 ・竹田学区の未就園の親子を対象とした「ぐんぐんひろば」では、約３００名の参加が得られた。 ・幼稚園説明会の参加人数は、昨年より減少している。 ・未就園児保護者に対して、幼稚園説明会で保護者からの質問を受けて、本園の教育内容を伝えた。 ・アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」 あてはまる８２％ 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園説明会では、本園の教育内容や活動の理解を図ったが、入園まで結びつくかは未定である。 ・「ぐんぐんひろば」では、竹田学区の多くの未就園の親子の参加が得られた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組について、今後も安全な運営を図っていきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月の「ぐんぐんひろば」の企画・運営を図り、幼小連携をアピールしていく。 ・ アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援の取組の回数や参加人数 ・ アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の子どもが竹田幼稚園にお世話になっていた時、「親子の会話がすくないのではないですか」と、担任の先生から指摘されたことがありました。その時は、ショックでした。その後、ゆっくり話すことや、腰を低くして、目線を合わせて話すように意識したものです。子どもが小さい間は、親も新米です。親御さんが迷いながら、でも、一生懸命子育てされている姿を見ると、頑張れ！！と応援したくなります。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間行事計画に地域教育を位置づけ、見通しを持った教育を行う ・ 竹田学区団体長会議などで、地域人材の発掘についての情報収集を行う ・ もちつきやバザーなどのPTA行事に、地域の方々の協力を求める
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流についての地域の方々の声 ・ アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に出ていく活動について、地域の方は好意的に受け止めていただき協力的である。 ・ アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」 あてはまる86%
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の地域に出ていく教育活動について、計画通り実施することができた。 ・ 野菜の栽培について、教員だけでは十分な作業・準備時間が確保できず、地域の協力を得られていない。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div>

	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の栽培活動について，保護者や地域の農家について協力を求めている。 ・地域の人材発掘を図る。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保育への地域の方々の協力・支援 ・アンケート項目「園は，地域と連携した取組を進めていること」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAからも地域の方々の協力を依頼していく。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果
自己評価	<div>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（５）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の意識，業務の効率化，業務の精選・適正化に向けて，自分に応じた具体的方策を実践する。 ・「働き方改革推進園」として時間外勤務の縮減を図り，子どもと向き合う時間を確保する。
具体的な取組	<p>○時間を意識した働き方の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議・研修の開始・終了時刻を提示し，守る ・毎週水曜日を「ノー残業デー」とし，各教職員の勤務終了時刻に退室するようにする <p>○業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案を基に，見通しをもった準備や環境整備を進める ・職員会の案件や園行事の実施案など，早期に作成・提示するなど，取組の見通しをもつ ・園行事や保育の準備・後片付けなど，中堅教員が中心となり経験に基づいた短時間でいう作業や，教材研究等のアドバイスを行う <p>○業務の精選・適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事や年間取組を見直し，行事と保育との連動を図る ・園内研修の精選・簡素化を図る ・土・日・祝日は電話対応せず，就業日の電話対応について，１８時以降は控えていただくように保護者・地域に依頼する

○校務支援員の活用
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率

中間評価

自己評価	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間は、昨年に比べ減少している。 ・年休取得率は、昨年に比べて増加している。
	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・会議・研修の時間短縮を図ることができている。 ・毎週水曜日の「ノー残業デー」は実施できていない。 ・校務支援員の活用により、教員の業務の軽減化を図ることができている。 ・行事の前には、業務のために勤務時間が長時間になる。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の「ノー残業デー」を意識し、各教職員の勤務終了時刻に退室するようにする。 ・職員会の案件や園行事の実施案など、早期に作成・提示するなど、取組の見通しをもつ。 ・行事の実施に向けた見通しを持ち、計画的な準備を行う。 ・校務支援員を有効活用し、業務の軽減化を図る。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・日々教職員の方々を見てみると、とても忙しそうで、なかなか声を掛けづらいと思うことがある。教職員の人数を増やすなど、先生方の負担を少しでも減らすことで、より園と保護者との関係がよくなるのではないかと思います。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>